

松森小

全校田植えて「松森夢米」



これがイチオシ

楽しんでもらうお店に

松森小学校のイチオシは何と言っても年に1度の「松小フェスティバル」。3年生から6年生がクラスごとにどんなお店を出すか話し合い、射的やボウリング、輪投げなどみんなで遊べて楽しめるお店を出し合います。

準備はとても大変ですが、全員で力を合わせ、全力で全校のみんなに楽しんでもらえるよう最高のお店を目指します。当日は1、2年生を含めた全員がお客さんとしてお店を回ってとても盛り上がり、学年を超えて絆が強まります。

学校名 仙台市立松森小学校
所在地 仙台市泉区鶴が丘2の2
創立 1978年
電話 022(372)0951
校長 花海 聡人
児童数 239人

松森小学校では毎年5月、全校田植えをしています。全校田植えは「松森つ子」が仲を深め合う大切な伝統行事。全員が楽しみにしています。

1、6年生と2、5年生、3、4年生がペアを組み、一緒に田んぼに向かいます。地元の田んぼの名人さんに苗植えを教えてもらい、ペアを組んだ上の学年が田植えをサポートするほか、ボランティアの人にも助けられています。児童と地域の人、保護者が協力して苗を植えます。

実際に田んぼの中に入ると、すこくぬるぬるして転んでしまう人もいますが、慣れてくると笑顔で自分から田んぼに入り、全員が田植えを楽しんでいる様子です。10月には全校で稲刈りをします。コメの名前は「松森夢米」。パッケージは5年生がデザインします。

松森夢米はもちもちとして甘く、一口食べただけで満足感があります。支えてくれている人たちに感謝をして、一日一日を大切にしながら、これからも松森つ子全員が笑顔で過ごせる学校をつくっていきます。



金学年が仲を深め合う伝統行事「全校田植え」

編集委員 鈴木聖絆、加納さやか、安藤優月、岬崎愛美梨（6年）
指導教員 村山汐里

わが校わがまち スクール通信



今回は
宮床小（大和町）
桂小（仙台市）

「秋祭り」で地域を笑顔に

学年全員で準備や運営

東船岡小学校は毎年10月末の2日間、「東船岡秋祭り」を開催しています。1日目は、1、2年生が制作した神輿で町内を練り歩く「お神輿練り歩き」があります。神輿には、たくさんの花飾りや子どもたちの似顔絵などが貼られて、神輿を眺める地域の人々を笑顔にします。

2日目は、3、6年生が学年ごとにお店を出します。釣り遊びや射的、謎解き、迷路、お化け屋敷など工夫が凝らされたお店が人気です。校庭では、野菜やクレープなどがあります。

東船岡秋祭りは、地域のみんなが笑顔になれる素晴らしい交流イベントです。



毎年10月末に開かれる東船岡秋祭りの様子。（左上から時計回りに）児童による「お神輿練り歩き」、魚釣り遊びのお店、スーパースクールすくすくを楽しむ様子、校庭で行われる餅や野菜などの販売会

編集委員 高橋咲絵、中村浩、門間玲依（6年）
指導教員 佐藤秀則

東船岡小



これがイチオシ

受け継いできた鼓笛隊

東船岡小学校には、長い歴史を誇る伝統の鼓笛隊があり、魅力は主に二つです。一つ目は、鼓笛隊が多くの先輩から受け継がれてきたことです。地域の人たちを勇気づけ、笑顔にさせてくれる力を持っています。

二つ目は、皆で力を合わせ、心をつなげて演奏を作り上げていくことです。5年生になってから本格的に練習を始め、今年の5月の運動会では、地域の人たちに素晴らしい演奏を披露しました。これからも鼓笛隊を在校生にしっかりと引き継いでいきます。

学校名 柴田町立東船岡小学校
所在地 柴田町上名生下中川93の1
創立 1988年
電話 0224(55)1811
校長 伊藤 直樹
児童数 193人

カブトムシを丸太に登らせて速さを競う「相撲大会」もあつた。代表の児童が箸で丸太をたたき、他の児童は「頑張れ」と

特別教室は、柴田R.C.が10年以上続ける地域貢献事業の一環。国分英敏会長は児童に「生き物と触れ合うことで、小さな命を大切にする心を育んでほしい」と呼びかけた。

今年は町内の全6小学校、幼稚園に計218匹寄贈した。（7月25日朝刊より）

カブトムシ 格好いい!!

柴田R.C.、西住小に90匹寄贈



昆虫の生態や命の大切さを学んでもらおうと、柴田町西住小（児童107人）で、カブトムシと触れ合う特別教室があつた。

地元の柴田ロータリークラブ（R.C.）会員が7月15日、同校を訪れて雄と雌1匹ずつ計90匹を1、3年生45人に贈った。

翔さん（8）は「カブトムシは頭と胸と腹で分かれていることを学んだ。雄の角が格好いい」と笑顔を見せた。



河北新報から

本のプロ 推しの一冊



サヨナラは言わない

アントニオ・カルモナ 作
加藤かおり 訳
小学館



パパの悲しみ 支える家族

日本語を話してはいけな、マンガやアニメを見てはいけな、玄関で靴を脱いではいけな、い。

12歳のエリーズの家には、たくさんのルールがあります。それはフランス人のパパが決めたルールでした。日本人のママが亡くなってから、パパの中には別の「イキモノ」がすみ着いて、ママや日本に関する事を思い出させないようにしています。

心を閉ざしたパパと懸命に支えようとするエリーズの下に、

ある日、日本からソノカおばあちゃんがやってきたことで、家族はママの死と思い出に向き合うことになるのです。

大切な人が亡くなると、悲しくて楽しかった思い出すら、つらい記憶に変わってしまうこともあります。エリーズはパパを悲しみから助け出すことができるのでしょうか。

支えてくれる家族や親友の存在に心が温くなるお話です。小学校高学年から。（宮城県図書館 島田佳世子）